

我逢人（人と逢うことから全てが始まる。我が空手道の師、横山館長）



兼任講師

平山 徹夫

みだりに人の師となるべからず。
またみだりに人を師とすべからず。
必ず真に教ふことありて人の師となり、
真に学ぶべきことありて師とすべし。（吉田 松陰）

言い尽くされた諺ですが、“桃栗三年 柿八年”－
武道の世界では、良い師を探すには何年掛かっ
ても探さないと言う方もおります。

又、自分の人生で三人本当の師に出会えばその
人は素晴らしい人生であると聞いたことがあります。

皆さんは、すでに三人の師お持ちでしょうか。もち
ろんこの師というものは、自分の一生を左右するよ
うな影響を与えてくれた“師”です。

私にとって三人の師とは

まず第一番目は、

－ 中学校の英語の 佐藤 正吾先生です。

この先生との出会いが無ければ、英語を好きに
なることも無く、英語を必要とする仕事に従事し
ようとも考えなかったでしょう。古い話ですが、当時テレ
ビの人気番組でありました西部劇“ローハイド”の
主題曲を教室で聞かせてくれたり、(このローハイド
にあの若きクリント・イーストウッドが出演してあり
ました。)授業の合間に米国の生活事情を教えてくれ
たり、楽しい授業でした。この佐藤先生は、英語を
話す前に日本語をまずきちんと話さないと言
っておられました。背高い先生で明るい人柄の
先生でした。

二番目の師は、

－ 明治大学 政経学部教授(日本政治思想史)
橋川 文三先生です。(この先生の著作集は、常
に手許においてあります。静かに学生に語りかける
学者肌の先生で今でも講義が鮮明によみがえりま
す。卒業後一度でもよいから、橋川先生の講義を
是非共受けたかったのですが、残念ながら叶いま
せませんでした。最終学年の最後の講義終了後の学
生全員総立ちになり感謝の気持ちを込めた万雷の
拍手の音は今でも心に残ります。

そして三人目の“師”は、今回紹介いたします、
沖縄小林(しょうりん)流空手道 研心会館 横山
和正館長です。

横山館長と始めて秋葉原の武道場(館長主催の
空手道及び棒術講習会)でお会いしてから、早 20
年近くなります。お会いする前に当時“武器術百
科”という沖縄古武道のビデオが武道専門誌で販
売されており、それを購入し何回も繰り返し観てお
りましたので何か初対面という気はしませんでし
た。

私は 18 歳の時に空手道を始めましたが、稽古
は、激しく(最も自分自身、稽古についていくだけ
の体力、精神力が無かったのかもしれませんが。)、
この激しさはともかく一番きついの、稽古中はも
とより、終わった後もすぐ水分をとると身体に悪いと
いうことで、正坐をさせられます。